

平成21年度学校評価実施報告書

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
授業研究を通して授業改善を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 「県立学校における授業研究推進のための校内研修体制整備に係る試行校」2年目の取組みとして、公開授業、研究授業、研修の実施方法を検討し、改善する。 生徒が、主体的に授業に取り組むことができるよう、実験・実習や演習を授業に積極的に取り入れる。 授業（指導）方法などについて情報交換を密に行い、よりよい授業を実践できるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業、研究授業、研修の実施方法を検討して改善を図ることができたか。 実験・実習や演習を授業に積極的に取り入れることができたか。 授業（指導）方法の情報交換によってよりよい授業を実践できるように勤めたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業期間を設定し、教員の7割が参加した。また、来年度の校内研修整備体制の大枠を決定した。 実験・実習を積極的に取り入れることで、積極的に授業に参加する生徒が増えた。また、演習時間を確保して机間指導を行うことで、一斉指導と個別指導との両立を図ることができた。 「授業実践シート」の回覧により情報交換を行い、よりよい授業を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業を年間行事として定着させるとともに、授業改善のための教科会を設定して、課題の共有化を図り、さらなる授業改善を図る。 主体的な取組や基礎学力の充実を図るために1年生を中心に実施している少人数指導の効果について検証を行い、新学習指導要領の実施に向けて、より効果的な少人数指導の設定科目について検討する。 同一教科にとどまらない授業改善のための情報交換の場として校内研修会を実施して、学校全体で授業改善に取り組む意識を高める。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 補習や講習などを通して、生徒一人ひとりを大切にした指導が実施されていることを評価する。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業改善への積極的な取組が行われている。また、個人を大切にした指導を実践していることを評価する。 家庭学習の習慣化のため指導を研究、実践する必要がある。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究授業や「授業実践シート」の回覧、「生徒による授業評価」の結果を活用した教科会による授業改善方法の検討など、授業改善のための体制を確立させることができた。 新学習指導要領を理解し、新しい教育課程を編成するために、ワーキンググループを発足させた。また、各教科の指導内容が新学習指導要領においてどのように変更されるかを各教科の代表者が報告する研修の機会を設け、新学習指導要領に対する関心を高めた。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業改善を効果的に進めるためには、教員の意識を高めなければならない。そのためには、日常的に授業改善に取り組む組織的な体制を作る。

<p>キャリア教育の推進によって主体性・社会性の育成を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップやボランティア活動、地域貢献活動など、校外活動を推進する。 ・教科指導におけるキャリア教育の促進を図る。 ・部活動や学校行事のさらなる活性化を図り、生徒の積極的な参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外活動を推進することができたか。 ・教科指導におけるキャリア教育を促進することができたか。 ・部活動や学校行事の活性化を図り、生徒の主体的な参加を促すことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職場見学やインターンシップ、仕事のまなび場への積極的な参加を呼びかけることで、多くの参加者があった。参加者は、自分の進路について考える機会とすることができた。 ・総合学習の時間を利用して、学校見学や新日石などの地域の施設を見学する機会を設けた。 ・全学年で地域貢献活動を実施して、地域社会の中で学校が果たすべき役割を考える機会を設けた。 ・各教科で、校外施設での実習やプレゼンテーションを取り入れた授業などを実践するなど、キャリア教育を意識した教育活動が行われた。 ・部活動への参加率の高さは維持されている。 ・クラスの日、球技大会、文化祭、合唱コンクールなどの行事に生徒が積極的に参加する姿勢が見られた。また、企画段階から自分たちの考えを反映させようとする生徒会役員、各種委員なども見られ、自主的な行事運営ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度始めに「キャリア教育実践プログラム」を検証する機会を設けるなど、職員全体でキャリア教育を推進する意識を高めることが必要である。 ・生徒が興味を持って参加し、多くのことを学べる校外学習の機会をもっと増やす必要がある。そのためには、参加者の感想などを生徒に紹介して、生徒全体の参加意識を高めてゆく方法などが必要である。 ・地域貢献活動は、地域自治会との連携を図ることができた。地域との連携をさらに充実させる必要がある。 ・教科指導におけるキャリア教育の実践例を職員に示して、さらなる活性化を図る。このことは授業改善と連携した課題である。 ・学校行事を通じて生徒が学ぶ意義は大きい。各行事の目的、目標を意識した運営を目指すことで、さらなる活性化を図る。 ・部活動が安心して行えるような環境の整備に努める。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は、クラスでの人間関係に限らず、多くの生徒が所属する部活動や活発な委員会活動によってさまざまな場で人間関係を築くことができた。 ・各行事でそれぞれの生徒の活躍できる機会が増え、お互いに発見や理解を深めることができた。 ・進路指導に熱心に取り組んでいる。 ・教員によって生徒が参加する学校行事への関わり方に差が見られる。生徒の活動が円滑におこなわれるように、多くの先生に生徒の活動を見守ってもらいたい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業式の生徒の態度、頭髪を含めた服装など、非常に落ち着いたものを感じられる。日常的な指導の成果だと、評価したい。 ・対話を基調にして築かれる人間関係が横浜立野高校の特徴だと思われる。今後もそうした面を大切に育てて欲しい。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校のキャリア教育は総合的な学習の時間を中心にして積極的に行われた。しかし、キャリア教育は学校教育全体で取り組むべきものであり、教科指導、特別活動といった領域で、キャリア教育を意識することで、より一層の教育効果をあげることができると期待される。教職員のキャリア教育に対する理解を深めることで、日常的にキャリア教育が行われるような体制を築くことが求められる。 ・インターンシップを始めとした校外学習への参加者には、十分な事前指導、事後指導を行ったため、その後の進路活動に積極的に取り組む姿勢が見られるなど大きな成果をあげた。 ・キャリア教育の観点を取り入れた授業実践は、生徒の主体的な授業参加など確実な成果をあげた。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の道徳教育の実施と連携させながら、生徒の社会性(シチズンシップ)を育てることに重点を置いたキャリア教育を実施するために、教科指導、特別活動の領域でのキャリア教育の充実を図る。 ・教員全体が学校行事の目的、目標を理解して、丁寧な指導を行う。
------------------------------------	--	---	---	---	---	--

<p>事故ゼロ達成を目指して、校内体制を整備する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成績証明書や調査書、通知表などの作成・確認の手順を全職員に提示して周知するとともに、確認体制を十分に機能させる。 ・生徒が安心して学校生活を送ることができるように、通学路を含めて学習環境の整備に努める。 ・文書（予算を含む）の起案・決裁等の手続きや保管方法についての規則を整理して全職員に提示する。また、そのことによって仕事の引き継ぎの円滑化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成績証明書や調査書、通知表などの作成・確認の手続きを全職員に提示して周知するとともに、確認体制を十分に機能させることができたか。 ・学習環境の整備に努めることができたか。 ・文書（予算を含む）の起案・決裁等の手続きや保管方法についての規則を整理して全職員に提示したか。また、そのことによって仕事の引き継ぎの円滑化を図ることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成績証明書、生徒指導要録、調査書、通知表の作成・確認の手続きについて、職員会議や学年会を通じて周知した。また、確認体制を機能させるために、それぞれの作業時に、打ち合わせなどで確認体制を全職員に連絡するなど、細心の注意を払って作業に当たるように配慮した。 ・交通安全指導を実施して登下校の安全を図るとともに、校内巡回指導を実施して安心して学校生活を送れるように配慮した。 ・文書起案・決裁文書の保管方法についてマニュアルを作成して全職員に示した。仕事の引き継ぎを円滑に行うための引継ぎ書類の作成などを推進した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当グループがその時々職員に注意を呼びかけるなど、事故を発生させないための努力が見られた。一方で、成績処理、定期テスト実施時などに、他の業務や会議と仕事が重なって十分な確認作業が行えない、といった問題も見られる。気持ちがあっても確認作業が行えないといった状況をなくすために、業務時間・会議時間の整理が必要である。 ・破損箇所の修理や机や椅子の交換などに努めたが、老朽化の上に耐震のために使えない部分を持つ校舎は、職員の努力では解決できない問題点も多い。 ・交通事故によって死亡した生徒がいたことをふまえ、交通安全教育の方法を検証し、充実を図らなければならない。 ・文書起案についてマニュアルを示すことはできたが、その有効な活用は今後の課題である。また、新しい体制に応じた業務の引き継ぎ方法を検討する必要がある。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生、生徒、保護者のつながりが深く、安心して学校生活を送ることができた。 ・自転車通学（駐輪）指導をしっかりして欲しい。 ・校舎の清掃は行き届いている。 ・移転までの期間の耐震対策、移転後の学校の保健衛生面について不安がある。 ・移転までの期間の校舎点検、移転先の受け入れ準備（清掃など）に配慮して欲しい。 ・校舎内の通路が制限されているために、上履き、下履きの両方で通らなければならない部分があるのが気になる。また、通用門前の階段の補修を行ってほしい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学マナーについては、以前に比べて良好な状態だと思われる。 <p>(その他)</p>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期テストの作成や成績処理に関する事故を防ぐために細心の注意を払った。確認・点検作業の整備に加え、業務の整理を行うことで、仕事に集中できる環境を整え、事故の発生を防ぐように努めなければならない。 ・入学選抜、定期テスト、成績処理などの期間に他の業務や会議が重なることがあった。こうした状況を改善する必要がある。 ・耐震工事、校舎移転に関わる問題は、校内の努力だけでは解決できない部分もあるが、通学する生徒が安心して学校生活を送れるように、破損箇所への迅速な対応、清掃活動の徹底など、できる限りの努力を行った。 ・事故防止については「ヒヤリハット」のケースがあったが、概ね目標を達成できた。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月間行事予定などを検討する際に、業務が重ならない時間設定を検討する必要がある。 ・通学する生徒、保護者に不安を抱かせないために、校舎移転について積極的な情報公開を行う必要がある。 ・校舎の安全点検を実施し、移転までの学校生活を安心して送れるようにする。 ・交通安全教育の充実を図る。 ・文書起案については、次年度の基礎資料となることを踏まえた文書作成を行う。また、業務の引き継ぎについては、組織改編に応じて、新しい体制作りが急務である。 ・事故ゼロ達成に向けて校内の体制作りを徹底する。
-------------------------------	--	--	---	---	---	---

